特集Ⅰ　「改組２年目の国際学部」

「グローバル・イシュー研究演習Ⅰ・Ⅱ」

代表教員　重　田　康　博

１　グローバル・イシュー研究演習Ⅰについて

グローバル・イシュー研究演習Ⅰは、異分野連携の複数教員と多文化公共圏センターの協働の下、学生主体の企画・運営およびフィールドワーク体験型を重視する「アクティブ・ラーニング」科目である。本演習は、学生が主体的な学びを通じて、グローバル・イシューについて理解しかつ認識を深め、地球にある諸問題の解決に対して積極的に行動してくための「グローバルな実践力」や「将来のキャリア形成への意識」を養うことを目的にしている。本演習Ⅰは、国際学部の重田康博、阪本公美子、留学生・国際交流センターの湯本浩之の３教員の担当で行っているが、18年度前期は重田が研究専念制度を活用していたため、３人が交代で授業を行った。前期の履修学生は16名であった。

表１　グローバル・イシュー研究演習Ⅰの具体的な進め方

１）オリエンテーションと講義
（４月：計３回）

２）テーマの検討とセミナーの企画
（グループ別、５月：計４回）

３）訪問調査・インタビューの方法、中間評価、訪問調査実施　（６月：計４回）

４）テーマに関するセミナーの内容の検討・発表・評価　（７月：計４回）

本演習Ⅰの授業の進め方は、表１の通りであり、以下に説明する。１）オリエンテーションの後過去のグローバル教育セミナーの報告、グローバル・イシューの問題の講義を行った。２）学生にセミナーに相応しいテーマを挙げてもらい、「難民」、「児童労働」、「水」、「鉱物資源」、「教育格差」の５グループを作り、各グループ別にテーマに関して調べた。３）テーマ・グループ別に訪問調査団体先を検討し、「難民」グループはNGO「牛久入管収容所問題を考える会」、「児童労働」は国際NGO「ACE」、「水」は国際NGO「ウォーターエイドジャパン（講習会参加）」、鉱物資源は民間企業「大日光エンジニアリング」、「教育格差」は「JICA栃木デスク」を訪問先にあげ、各グループが先方の団体に連絡し、訪問、スカイプや電話インタビューを行い、講習会に参加した。６月21日に授業の「中間評価」を行い、学生からいろいろな意見が提出されたので、６月28日の授業で中間アンケート結果を全員で問題点を共有し、改善策を検討した。４）各グループがどのようなセミナーを発表するのかの検討を行い、７月19日の授業で５つのグループの発表会を行った。発表会の目的は、①グループの活動の成果を発表し、②その成果を参考にしてセミナー企画を提案し、③後期の授業に向けて各セミナー企画を全体で共有することであった。方法はポスター発表（模造紙３枚～５枚以内）、持ち時間は15分（発表10分、質疑応答５分）、役割分担として発表者、タイムキーパーなどを決め、発表後各自が相互評価表に基づき各グループの発表を評価した。７月26日の最後の授業では、総合評価集計結果を全員で共有し、各自が自己評価シートに記入し、後期の授業の進め方について説明した。

前期の授業の課題としては、①テーマの設定やグループ分けの問題、②テーマや関係団体に関する学生の知識や経験不足の問題、③調査訪

問先の問題（相手先の学生に対する対応、事務所の所在地が東京や茨城）、等があった。

2　グローバル・イシュー研究演習Ⅱについて

本グローバル・イシュー研究演習Ⅱの内容と目的は、演習Ⅰと同様である。本演習Ⅱの到達目標は、グローバル・イシューについて、学生主体による「グローバル教育セミナー」の企画・運営等を通じて学生が「グローバルな実践力」、「将来のキャリア形成への意識」を獲得することである。本演習Ⅱは、演習Ⅰと同様に重田、阪本、湯本浩之の３教員の担当で行ったが、後期は大部分重田が授業を行った。履修学生が何名集まるか心配したが、結果的に７名であった。前期に比べ少ないが、演習の人数としては適当な人数であった。

表２　グローバル・イシュー研究演習Ⅱの具体的な進め方

１）オリエンテーション　セミナーのテーマの決定　（10月：計２回）
２）テーマ「水問題」に関する学習、インタビュー調査　（10月～11月：計４回）
３）セミナー・ワークショップの検討　（11月～12月：計４回）
４）学生ワークショップ、グローバル教育セミナー反省会、報告書作成（12月：計２回）
５）SDGs学習　（１月：３回）

本演習Ⅰの授業の進め方は、表２の通りであり、以下に説明する。１）オリエンテーション後、各自にグローバル育セミナーに相応しいテーマを挙げてもらった結果テーマを「水問題」に決定する。２）セミナーの内容と団体の基調講演者を検討し、テーマ「水問題」に関する論文・書物（鈴木康次郎・桑島京子『プノンペンの軌跡』（佐伯印刷出版事業部）、「WHO/UNICEFの水に関するレポート」）の輪読、ワークショップ（水汲み実体験など阪本）、ビデオ鑑賞（中村哲ペシャワール会「アフガニスタンの井戸掘り」）を行った。11月５日には、基調講演者のウォーターエイドジャパンの事務所を訪問し、高橋郁事務局長に学生と教員でインタビュー調査を行った。３）学生ワークショップの内容の検討・練習・準備を行った。12月に入り、多文化共生コア科目「地球市民社会論」（履修生約100名）の授業において、12月14日「学生ワークショップ」、12月21日ウォーターエイドジャパン事務局長高橋郁氏を基調講演者として招き「グローバル教育セミナー」を開催した。４）学生ワークショップ、グローバル教育セミナーの終了後に学生が作成したコメントシート回答結果やアンケート回答を基に反省会を開催し、意見交換を行い、報告書の作成の担当を確認した。５）持続可能な開発目標（SDGs）の学習を行い、「SDGsとは」、「水と衛生」、「気候温暖化」について輪読し、学生による発表を行った。

後期の授業の課題として、①今後履修者数が多い場合のテーマの設定やグループ分けの問題、②テーマや関係団体に関する学生の知識や経験不足の問題、③学生ワークショップ、グローバル教育セミナー開催との妥当性、④調査訪問先の問題（事務所の所在地が東京や茨城）、等があった。